

子宮頸がんワクチン のおはなし



はらまちスマイルクリニック
山下 匠

子宮頸がんってなんだろう？

♥ 毎年約**3,000人弱**の方が亡くなる疾患

→手術等で治療を行えた場合でも

出産ができなくなる

その他身体の後遺症を残す（排尿障害、下肢浮腫など）

ことがある・・・

♥ 「**mother killer**」ともよばれる

→その原因が「**ヒトパピローマウイルス（HPV）**」

ヒトパピローマウイルス（HPV） ってなんだろう??

- ♥ HPVが原因で生じる病気 ⇨ 子宮頸がん
それ以外に・・・

中咽頭がん（のど）、肛門がん、膣がん
外陰がん（おまた）、陰茎がん（おちんちん）

⇨ **男性にもがんを生じるウイルス**

感染を予防するワクチンがあります！

- ♥ どうやって感染するの??

→ **性交渉**で感染します！

→ **その前に、予防しておくことが非常に重要！**

HPVワクチン ってなんだろう？



- ♥ HPVワクチンは世界的に接種されている
→接種の進んでいる国々では

子宮頸がんは大幅に減少！！

- ♥日本では・・・

残念ながら接種が進んでいない！！

子宮頸がんの発症抑制について後進国...

HPVワクチン

♥定期接種（お金がかからない期間）

小学6年生～高校1年生までの女性

♥接種スケジュール

（シルガード9（9価ワクチン）の場合）

→ **3回接種！**

→ 1回目－2回目：2か月間隔

2回目－3回目：4か月間隔

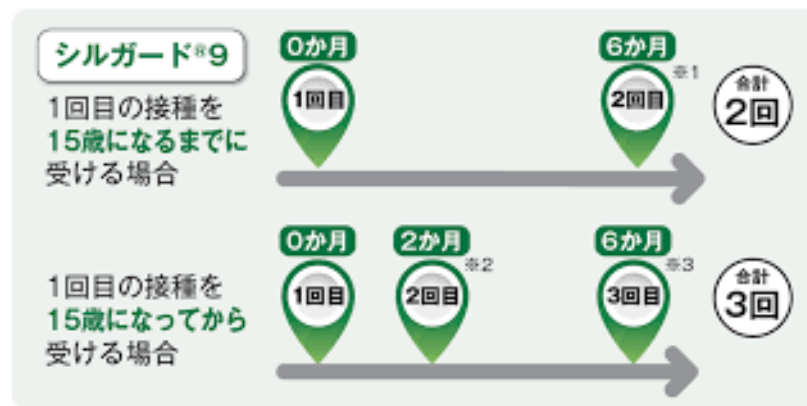
※15歳未満で1回目を打つと2回接種（6か月間隔）

※男性：任意接種ですが接種可能！！

（「シルガード9」のみ対応）

→ **南相馬市：2026年4月から小6～高1で接種助成が開始！！**

→ 推奨されるスケジュール：上記と同様です



HPVワクチン

♥副反応について・・・

詳細な臨床研究、統計解析（＝科学的検討）により
HPVワクチンにより、**重篤な合併症リスクは高くないと**
科学的に証明されています。

♥予防接種ストレス関連反応（ISRR）

様々な「不安」に伴って生じやすい症状です
HPVワクチン特有の副反応ではなく
HPVワクチン以外のワクチン等でも生じる場合がある
⇒**HPVワクチンにより増えてしまう症状ではない！**

♥HPVワクチン接種に対して不安を感じている

接種するか迷っているならばぜひご相談ください！

接種をするかどうか、一緒に考えましょう☆

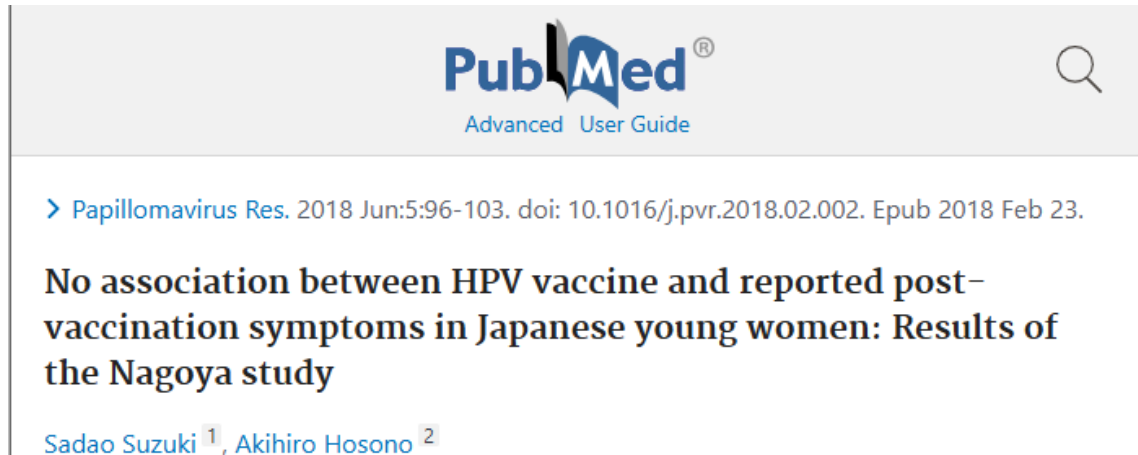
HPVワクチン

～接種非勧奨⇒キャッチアップ接種に至る経緯～

<積極的な勧奨の差し控えとその再開について>

時期	積極的な勧奨の差し控えの経緯および対応
2013年 4月 1日	HPV ワクチンの定期接種の開始。
2013年 6月 14日	HPV ワクチンの定期接種の積極的勧奨の一時差し控え。 ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛がワクチン接種後にみられたことから、副反応の頻度がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではないとされた。
2015年 8月 19日	日本医師会・日本医学会「HPV ワクチン接種後に生じた症状に対する診療の手引き」発刊。
2015年 9月 17日	副反応追跡調査の結果公表。 HPV ワクチン接種の有無によらない機能性身体症状の頻度等に関する疫学的研究によって得られる知見も含め継続した検討が必要であり、積極的な勧奨の一時差し控えは継続することが適当とされた。
2015年 9月 30日	「ヒトパピローマウイルス感染症の予防接種後に症状が生じた方に対する相談・支援体制の充実について」（厚生労働省健康局長、文部科学省スポーツ・青少年局長連名通知）発出。
2016年 12月 26日	「子宮頸がんワクチンの有効性と安全性の評価に関する疫学研究」（研究代表者：祖父江友孝）より、疫学調査の結果（HPV ワクチン接種歴のない者においても、HPV ワクチン接種後に報告されている症状と同様の多様な症状を呈する者が一定数存在したこと等）が報告された。
2021年 11月 12日	積極的な勧奨の差し控えの終了が妥当との判断。 最新の知見を踏まえ、改めてHPV ワクチンの安全性について特段の懸念が認められないことが確認され、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ると認められた。
2022年 4月 1日	個別勧奨の再開、キャッチアップ接種が開始された。

HPVワクチン ～副反応に関わるエビデンス～



対象：1994/4/2～2001/4/1生、名古屋市在住の女性71,177人匿名の郵送アンケート。

評価項目：24の症状の発症（主要評価項目）、関連する病院への受診、頻度、就学への影響

結果：29,846人の回答が解析対象。

24のHPVワクチン接種後の症状→いずれについても発生率の有意な増加なし

「異常な量の月経出血」（オッズ比 1.43、95% 信頼区間 1.13-1.82）

「不規則な月経」（オッズ比 1.29、95% 信頼区間 1.12-1.49）

「ひどい頭痛」（オッズ比 1.19、95% 信頼区間 1.02-1.39）

慢性で持続する「異常な量の月経出血」（オッズ比 1.41、95% 信頼区間 1.11-1.79）

⇒病院受診の年齢調整オッズ増加と関連。

学校出席に有意な影響を与える症状：なし、症状の蓄積も観察されず

結語：HPVワクチン接種と報告された症状の間に因果関係がないことを示唆。

小児科医から 接種対象のみなさんへ

- ♥いまいるパートナー
- ♥将来のパートナー
- ♥いつかいるかもしれない自分の子どもたち

想像するのは難しいかもしれないけど...

大切な人たちとの楽しい未来のために
いま、ワクチンを打ちませんか??